



スポーツ庁 | UNIVAS

大学スポーツ資源を活用した 地域振興モデル 創出支援事業 サマリーレポート



スポーツ庁



UNIVAS

本事業は、スポーツ庁委託事業
「令和5年度 感動する大学スポーツ総合支援事業」によるものです。

発行元 | 一般社団法人 大学スポーツ協会

UNI8H_27FEB2024

本事業の
WEBページは
コチラ



INTRODUCTION

はじめに

大学は、人材、施設、教育・研究・部活動の成果など、
豊富なスポーツ資源を有しており、これらを活用し、地域の課題解決、
地域社会の発展を支える存在として地域で
重要な地位を占める可能性を秘めています。
こうした観点から、今回10の大学において各大学の有する
スポーツ資源を有機的複合的に活用し、
自治体等の地域の組織・団体とも十分に連携・協力し、
地域の課題を解決する取り組みをモデル的に実施、検証分析を行いました。

本報告書で各大学の取り組みを紹介し、
その成果が横展開されることによって、
全国各地で大学スポーツによる地域振興の取り組みが活性化し、
更なる発展をしていくことを期待しています。

INDEX

目次

P. 2 はじめに

タイプA

P. 4 鹿屋体育大学

P. 6 福岡大学

P. 8 立命館大学

タイプB

P.10 旭川市立大学

P.12 大阪体育大学

P.14 九州共立大学

P.16 群馬大学

P.18 静岡大学

P.20 周南公立大学

P.22 阪南大学

鹿屋体育大学による鹿屋市民のウェルビーイングを実現する 地域密着型ヘルス&プロモーション事業

実施概要と目的

① 多世代交流ミッションウォーキング事業 [地域課題①③⑤]

幼児学童期・子育て世代・高齢者世代(多世代)を対象とするスポーツイベント開催

② みるスポーツ支援人材育成事業 [地域課題②⑤⑥]

大学スポーツイベントに関するセミナー開催／スポーツボランティアリーダー養成／スポーツ観戦イベント開催

③ 職域へのウェルビーイング出張事業 [地域課題③④]

働き世代に向けた自宅で継続的に取り組める健康・運動プログラムの企業への普及・拡充

④ 目指せ鹿屋健康寿命日本一プロジェクト事業 [地域課題④⑤]

令和4年度に試行したICT(タブレット活用)による介護予防事業の他地域への展開

地域が抱える課題

- ① 鹿屋市の小中学生の体力は全国平均より低い※1
- ② プロ・大学スポーツを会場で観戦する市民が少ない※2
- ③ 鹿屋市民のスポーツ実施率は全国平均より低く、30歳、40歳代の働き世代・子育て世代が特に低い※2
- ④ 鹿屋市民のメタボリックシンドローム該当者・予備群は全国平均より高く、20歳～64歳の1日の平均歩数は全国平均より低い※3
- ⑤ 鹿屋市の要介護認定率は全国より高い水準※4
- ⑥ 鹿屋市民のスポーツボランティア経験率は全国平均より低く、50歳代以上の世代が特に低い※2

※1: 第2次鹿屋市総合計画 ※2: 第2期鹿屋市スポーツ推進計画
※3: 第2次鹿屋市健康づくり計画 ※4: 鹿屋市第8期介護保険事業計画

活用した大学スポーツ資源

本事業は、大学の以下のスポーツ資源を活用して実施する。

■ 本学教職員

イベントの企画・立案、イベント実施、学内外の関係者との連絡調整

■ 課外活動団体に所属する学生

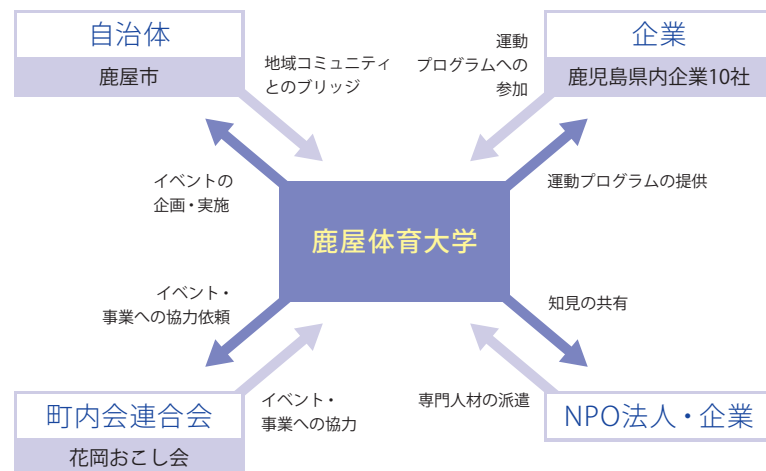
イベントの企画・補助、課外活動団体との連絡調整

■ 鹿屋体育大学白水キャンパス

(屋内外の体育施設、SPORTECSスポーツパフォーマンス研究センター)

イベント・セミナー開催の会場、測定・ウォーキングコース会場

実施体制図



VOICE 連携団体より

鹿屋体育大学と連携し、地域課題解決を進めることで、行政だけではできない取組が行えることは大きなメリットです。

鹿屋市役所 市民スポーツ課 課長 的場 修一郎

鹿屋体育大学との事業連携により、自社のチーム力や問題解決力がアップし、自身の健康状態を顧みるきっかけにもなりました。

豊明建設株式会社(健康経営優良法人プライト500) 代表取締役 林 正英

実施した具体的な事業

事業1

[地域課題①③⑤]

多世代交流ミッションウォーキング事業

【第1回: 体大ミッションウォーキング】

鹿屋市内の子ども・高齢者計51名が参加し、学内施設10か所に大学や鹿屋市にまつわる謎解き、学内1か所に体をを使うミッション、測定体験を行った。

【第2回: 蒼天祭×ミッションウォーク】

幼児学童期・子育て世代・高齢者世代(多世代)計77名が参加し、学内施設4か所の謎解き、部活動体験ブースでのミッションを行った。



事業3

[地域課題③④]

職域へのウェルビーイング出張事業

働き世代・子育て世代のスポーツ実施率向上、健康増進を目指し、健康経営・働き方改革を推進する職域プログラムを鹿屋市内の協力企業10社(99名)に対して実施した。なお、職域プログラムは、健康状態の調査、フィジカルチェック、運動コンテンツアプリ・動画コンテンツの提供、睡眠・ヨガ・腰痛肩こり体操に関する研修・実技から構成されている。



事業2

[地域課題②⑤⑥]

みるスポーツ支援人材育成事業

スポーツボランティアリーダーを育成するため、①サッカーの試合の現場体験[16名] ②外部の専門家によるボランティア講習会[16名] ③スポーツボランティア活動の運営(受付、案内・誘導、アンケートの実施・回収、場内アナウンス)[14名]を行った。なお、本事業のスポーツボランティアへの指導や運営体制の構築は、学生マネジメントスタッフが主体で行った。



事業4

[地域課題④⑤]

目指せ鹿屋健康寿命日本一プロジェクト事業

令和4年度に試行したICT(タブレット)による介護予防教室を他の2地域に横展開した。介護予防教室では、地域在住高齢者55名を対象に週1回、3ヵ月間、タブレットを活用し、フレイル予防(運動・栄養・口腔)、日常生活の中で実践できる介護予防運動、期間中の身体活動量の増加やフレイル関連機能(体力・認知・身体組成・口腔)の維持・改善を確認した。



結果・成果

- ・4事業の実施により、幼児学童期・子育て世代・高齢者世代(多世代)延べ761名が参加し、スポーツ交流人口増加に寄与した。
- ・スポーツイベント開催にあたり、運営する側(スポーツボランティア)の人材確保を行うことができ、より強固な市民参加型のイベントの実現が可能となった。
- ・働き世代・子育て世代が継続的に取り組むことができる健康・運動プログラムを開発し、職場など参加しやすい場に提供した。
- ・「健康寿命」の延伸に資する新たな介護予防プログラム(ICT活用プログラム)を開発し、高齢者のフレイル予防・介護予防に寄与した。

事業名	参加者数(延べ数)
①多世代交流ミッションウォーキング事業	128
②みるスポーツ支援人材育成事業	46
③職域へのウェルビーイング出張事業	99
④目指せ鹿屋健康寿命日本一プロジェクト事業	488
計	761

〈職域プログラムの開発〉

- 1) 健康状態の調査、フィジカルチェック
- 2) 運動コンテンツアプリ・動画コンテンツの提供
- 3) 睡眠・ヨガ・腰痛肩こり体操に関する研修・実技

〈介護予防プログラム(ICT活用プログラム)の開発〉

- 1) 高齢者のための運動カレンダープログラム(1日1種実践プログラム)
- 2) 高齢者のための筋力・ストレッチプログラム(身体機能改善プログラム)
- 3) 高齢者のための脳トレ運動プログラム(認知機能改善プログラム)

総括・今後の展望

① 多世代交流ミッションウォーキング事業

ウォーキングコースの常設化により、働き世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上及び鹿屋市内の小中学生の体力・運動能力の向上を目指す。

② みるスポーツ支援人材育成事業

スポーツボランティアが参加できるイベントを拡大し、スポーツ交流人口を増加させる予定である。

③ 職域へのウェルビーイング出張事業

本事業の自走化に向け、取り組む企業数を増加させる予定である。

④ 目指せ鹿屋健康寿命日本一プロジェクト事業

退職世代など前期高齢者を中心に将来の介護予防を見据えたICT活用プログラムの普及を図る予定である。



福岡大学

タイプA

対象地域：福岡県福岡市

『“新しい地域スポーツ”の価値創造基盤の構築』 大学によるコンソーシアム事業推進と中学部活地域移行トライアル

実施概要と目的

① 地域スポーツイベント・講座の推進と自走化 (課題①②)

「誰もが、あつまり、ともに、つながる」新しい地域スポーツ文化の醸成 (全10事業)

② 中学校部活動地域移行福大型トライアル事業 (課題③④)

- 指導者養成研修会、マッチングシステム構築
- 集合型(合同練習)と派遣型の併用実践

③ 学校教育(小学生体力向上・体育授業)支援 (課題⑤)

- 公立小・中学校教員向けの実技研修会(市内全校参加)
- 小学校体育授業支援の実施と評価

地域が抱える課題

- 福岡市の人口増加(162万人超)に伴うスポーツインフラ・施設や場の慢性的不足
- スポーツをする機会と場、指導人材の不足
子ども対象、社会人対象、中高年対象、障がい者対象のスポーツ参画人口拡大のための具体策不足
- 中学校部活動の週末地域移行問題への対応遅れ
指導員、支援員の養成(指導人材の発掘)、場所の確保、経費負担問題
- 部活動指導者の人材不足と質の保証
指導者養成システムや研修内容の未整備、マッチングシステムの未整備
- 小学生の体力低下に対する市内小・中学校教員向け研修機会の不足
小学校体育授業への具体的支援(効果的な教材、指導法の伝達)不足

活用した大学スポーツ資源

本事業は、本学の以下のスポーツ資源を活用して実施。

- **福岡大学スポーツ・健康まちづくりコンソーシアム**
本学が中心となり、自治体、企業、地域スポーツ団体が一体となった共同体(令和4年度設立)
参画機関と連携し事業を展開
- **スポーツ科学部所属教員**
高度なスポーツ指導法や知見を持つ研究者が所属
- **小・中・高校の教員を目指す学生**
教員養成コースを設置
毎年多数の教員採用者を輩出
教員、指導者養成拠点としての高い評価
- **校友会体育部会に所属する44部、約2,000人の運動部員**
全国的にも上位に位置する高い競技レベルの学生アスリートが多数在籍
- **福岡大学キャンパス**
ワンキャンパスに集約された最新鋭のスポーツ施設群(体育館、室内プール、各種専用グラウンドが隣接し、地下鉄などの利便性が高い)

実施体制図



実施した具体的な事業

事業1

[地域課題①②]

大人の“rugby amusant”教室(継続事業)

昨年も好評であった、大人のラグビー教室を5回開催。今年度はワールドカップの開催時期と同時期に行ったこともあり、ワールドカップの解説も交えながら、企業やスポーツ団体と連携して実施した。参加者からは、手厚い指導で最高に楽しい、良い運動の機会になったなどの感想が寄せられ、社会人のスポーツ機会や場の提供、コミュニティの創出に繋がった。



事業3

[地域課題③④]

中学校部活動地域移行トライアル事業 指導者養成研修会・集合型部活動を実施

福岡市城南区の6つの中学校を対象に、部活動地域移行トライアル事業に取り組んだ。教員や指導者を目指す本学の学生120名を対象に、指導者養成研修会を開催。オンライン研修も受講した学生を指導者として、複数の中学校部活動を集め、本学の施設で行う「集合型」部活動を行った。中学校から延べ630名の部活動生が参加し、学生から指導を受けた。参加した部活動生とその顧問、指導した学生から高い評価を得た。



事業2

[地域課題①②]

親子でやろう剣道体験教室 親子でバスケット(新規事業)

親子参加型イベントを初めて実施。親と子が一緒に楽しめる企画としてどちらも大盛況であった。親子と一緒に参加することで、スポーツにより親しむことができ、スポーツの素晴らしさを感じるきっかけ作り、スポーツ人口の拡大に繋がった。



事業4

[地域課題⑤]

教員向け指導者研修・体育授業支援

小・中学校、特別支援学校の教員約200名を対象とした「体力向上のための指導者向け研修会」を教育委員会と共同で開催。大学教員の研究成果に基づく効果的なトレーニングを教育現場に広げ、子どもたちの体力向上を目指す取り組みである。また、本学教員、教員志望学生、外部講師協力のもと福岡市内の小学校にて体育授業支援を実施。コーディネーション運動を取り入れ、子どもたちのメンタルストレスの軽減や認知機能の向上に繋がった。



結果・成果

・スポーツ参画人口の拡大(場と機会の創出)

各種スポーツイベントを実施し、「誰もが、あつまり、ともに、つながる」地域のスポーツ文化を醸成した。

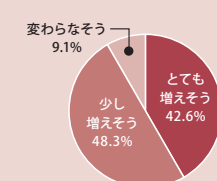
・中学校部活動週末地域移行の実現

指導者養成研修会、マッチングシステム構築、集合型(合同練習)と学生派遣型部活動支援を実施し、部活動の地域移行に取り組んだ。

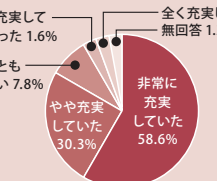
・小学生の体力向上に貢献

市内小・中学校教員への研修会、市内小学校への体育授業支援を行い、指導者研修、子どもたちのメンタルストレスの軽減や認知機能の向上に繋がった。

今後のスポーツ参加に関する意欲や行動変容率



普通の部活動と比べて充実していたか(生徒)



出典：本事業におけるアンケート結果より

総括・今後の展望

① コンソーシアム事業の拡大と自走化の推進

今後は一般社団法人FUスポーツコミュニティが運営の主体となり、コンソーシアム事業の自走化を軌道に乗せていくことになる。経済界や行政・自治体とのさらなる連携を深めていく。

② 中学校部活動地域移行 福大型モデルの確立

大学スポーツ資源を活用した集合型(合同練習)と派遣型部活動支援のトライアル事業は、全市内や全国への横展開の可能性が高い。

③ 小学生の体力向上への具体的施策

市内小学校・中学校全校への研修会開催も、教育委員会等と連携し、継続性を持って展開していきたい。

VOICE 連携団体より

区内の市立6中学校で本事業に参加しましたが、生徒、教員の満足度の高さから、共に生徒のスポーツの未来を開拓する事業だと確信しました。

福岡市立友泉中学校
校長 宇都宮 淳

産学官連携により、沢山の笑顔を見ることができました。今後も地域の方々とスポーツを通じて明るい未来を創造していきたいです。

一般社団法人 Azure sky
代表 築城 昌拓

「びわこ・くさつWell-beingコンソーシアム」を通じた地域のスポーツ推進ならびに多世代が交流できる健幸コミュニティ創出事業

実施概要と目的

① 立命館スポーツアカデミーの展開

(課題①②④⑥)

大学の教育・研究資源を活用した育成プログラムを構築し、次世代を担う指導者を育成。

② 多世代交流型スポーツ体験イベント

(課題①③④⑤)

誰もが一緒に楽しみWell-beingを感じるBKCウェルカムデーを実施し機会と場を提供。

③ 派遣型「立命館Well-being」

(課題①③⑥)

Well-beingつながる健幸コミュニティの創出と体力向上、正しい知識の習得の機会。

地域が抱える課題

- ① 滋賀県のスポーツ実施率が全国平均より低い
- ② 草津市における指導者の資質向上と確保
- ③ 多世代が交流できる場と機会が少ない
- ④ 運動好き子どもの割合向上
- ⑤ 親子で参画できる運動機会が少ない
- ⑥ スポーツ・健康に関わる科学的知見を得る機会が少ない

活用した大学スポーツ資源

本事業は、大学の以下のスポーツ資源を活用して実施する。

■ 本学体育会クラブ所属コーチ、部員、一般留学生、一般学生

スポーツ教室などに体育会クラブ所属コーチ、部員を派遣。その他、イベントに一般学生、留学生を派遣。

■ 立命館大学びわこ・くさつキャンパス (BKC) 施設

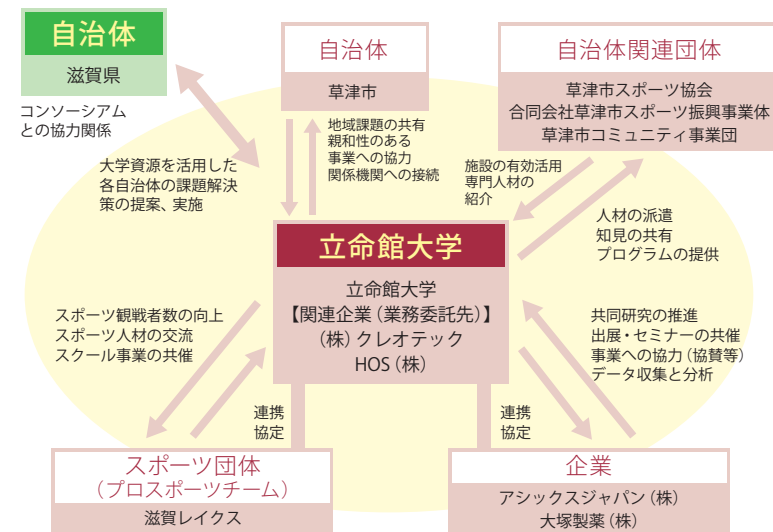
イベント実施会場としてBKCクインスタジアム、BKCグリーンフィールド、BKCスポーツ健康 commons などを使用

■ 本学内の関連部門

スポーツ健康科学総合研究所、BKC地域連携課、BKCリサーチオフィス、スポーツ強化オフィス、学内学生団体

実施体制図

立命館大学が主体となり進める地域のWell-being推進を目的としたコンソーシアム



実施した具体的な事業

事業1

[地域課題①②④⑥]

立命館スポーツアカデミーの展開

立命館スポーツアカデミー

本学のスポーツ健康科学部を中心にコーチ、学生、および一般にも公開でオリンピックのセミナーを実施。また、運動基礎知識のWEB講座、飛込競技、ラグビー、陸上競技の体験教室で実践の指導実習を実施。陸上教室には近隣中学校の陸上部を招き、部活動の地域クラブ移行も踏まえモデルケースとなる体制を作り取り組んだ。



事業2

[地域課題①③④⑤]

多世代交流型スポーツ体験イベント

BKCウェルカムデー

本学の所在地、草津市の地域イベントとして学生・地域住民・企業・行政・教職員が集い「スポーツ、健康、食、SDGs」などを盛り込んだみんながWell-beingを感じる交流体験イベント。親子で気軽に楽しめることもあり「スポーツ・健康」の企画には延べ7,200 人名以上の参加があった。



事業3

[地域課題①③⑥]

派遣型「立命館Well-being」

高齢者福祉施設 体力測定&交流会

草津市内の高齢者福祉の健康増進を図る施設「ロクハ荘」において運動の機会、健康セミナーによる知識の習得、体育会クラブ部員との交流の場を提供。学生との交流で健康に対する意識も高まり運動の継続意識を促進。体力向上、維持によりWell-beingと「健幸都市」につながる活動となった。



「レッツ・エンジョイ・スポーツ」体験授業

草津市教育委員会と連携し地域の小学校に体育会ラグロ部、アメリカンフットボール部の学生を派遣しスポーツ体験授業を実施。体験授業を受けた高学年の児童もスポーツの楽しさとすばらしさを実感し身体を動かす喜びを体感できる機会となった。

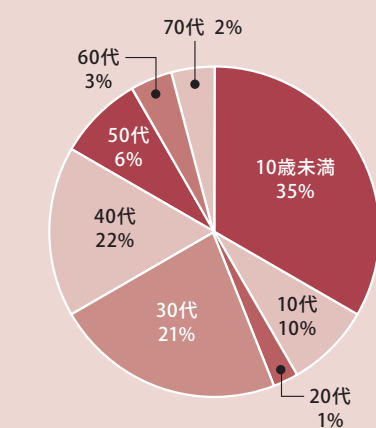


結果・成果

本コンソーシアムの3事業によって地域のスポーツ推進ならびに多世代が交流できる健康コミュニティ創出のもと多世代にわたりスポーツ・健康に関わる機会と場を提供し地域住民の「Well-being」につなげる成果を上げることができた。BKCウェルカムデーでは親子で気軽に参加できる多種多様な交流イベントとしてスポーツ・健康の40企画に参加した来場者の年代比率は子ども世代45%、親世代33%となった。親子で参加することで子育て世代へ楽しみながら運動実施のきっかけを促進できたのは大きな成果であった。

BKCウェルカムデー 2023 来場者アンケート

スポーツ健康関連体験者 (回答数 800)



総括・今後の展望

草津市を中心に地域のスポーツ推進、多世代が交流できる健康健康コミュニティ創出を目指した多様な企画を展開。大学と各団体、企業が討議を重ね「産官学民」による「価値共生」「次代を担うスポーツ人材を地域と共に育む」ことを目的にプロジェクトを推進。この活動が一過性で終わらず、多様な健康施策が継続的、系統的に推進されるよう、「産官学民」が一体となり、草津市が掲げる「健幸都市くさつ」の宣言のもと、永続的に地域全体のスポーツ・健康を取り巻く課題解決と、「Well-being」の実現を目指していきます。

VOICE

連携団体より

多世代交流の有意性と継続・習慣化の困難性を再認識できました。まずは高頻度化と開催・参加の容易化を図りたいと存じます。

HOS株式会社 体育施設事業部
BKCスポーツ健康 commons 宇部 一允



産官学民連携事業を通じ、スポーツ体験する機会を創出することで、心身ともに健康であり続ける社会へ貢献してまいります。

アシックスジャパン株式会社
スポーツマーケティング部 伊藤 絵美





ホームゲーム開催で 地域のスポーツ振興と在学生の帰属意識を向上

実施概要と目的

① ハンドボール・フレンドリーマッチ [地域課題①②③]

スポーツマネジメントの実践の場を提供し、学内のスポーツイベント機運を醸成。
地域住民にハンドボールを観る・する機会を提供。

② 体操競技 海外チームとの対抗戦 [地域課題①②③] OUHS GYMNASTICS INVITATIONAL

地域住民に体操競技大会を観る機会・体操競技に触れる機会を提供

地域が抱える課題

- ① 幼少期からからだを動かすことに慣れ親しみ、適度な運動を習慣づけることが重要であり、だれもがスポーツに取り組みやすい環境づくり
- ② 町内大学やスポーツ関係団体などと協力し、部活動の地域移行に向けた取組を段階的に推進
- ③ 「住民ニーズに応じた教室の開催」「観るスポーツ」
として大会等を招致し、スポーツへの参加意欲を向上機会の創出

※①は熊取町・第4次総合計画（2018.3）
※②③は熊取町・令和5年調整運営方針

活用した大学スポーツ資源

本事業は、本学の以下のスポーツ資源を活用して実施する。

■ クラブ指導者／クラブ学生

対戦チームのとの調整、審判の手配、当日の会場運営、全体の企画・進行、ポスター・プログラム作成（下線部は事業②のみ）

■ スポーツマネジメントコースの教員と学生

全体の企画・進行、ポスター・チケット作成（全て事業①）

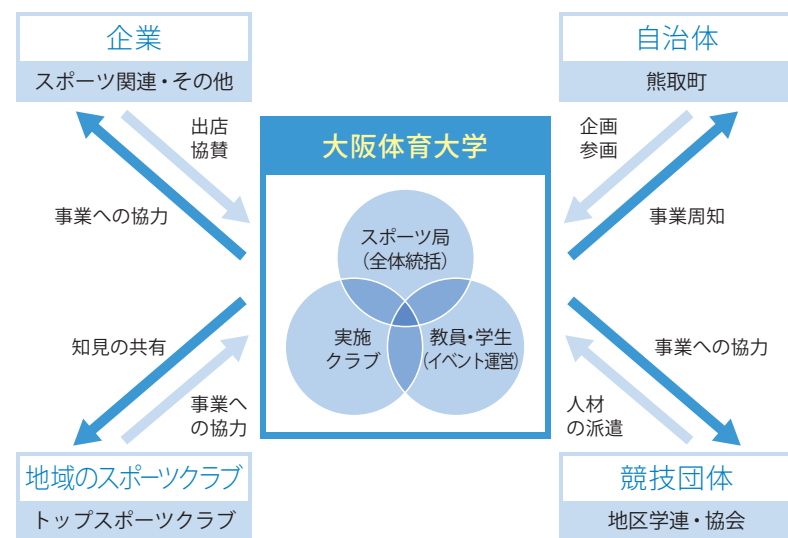
■ 大阪体育大学 第6体育館／第3体育館

事業①は第6体育館アリーナ、事業②は第3体育館体操競技場を使用

■ 大阪体育大学スポーツ局

事業①は統括部局として企画の統括、事業②は協力部局として企画に指導・助言

実施体制図



実施した具体的な事業

事業1 [地域課題①②③]

ハンドボール・フレンドリーマッチ

クラブをハンドボール男子に選定し、スポーツ局が中心となり地域の小中学生を対象に競技体験と、他大学との対抗戦（フレンドリーマッチ）の観戦体験イベントを月曜日の夕刻に実施。試合前やハーフタイムには他クラブの演技・演舞などを企画し学生が学生を応援でき、かつ地域住民がハンドボールに触れる機会や学生の生き生きした活動を観る機会を提供した。



事業2 [地域課題①②③]

体操競技 海外チームとの対抗戦 OUHS GYMNASTICS INVITATIONAL

体操競技部主催・スポーツ局協力でカナダの州代表や世界的な競技者を招き体操競技イベントを実施。より地域住民が観戦できるよう日曜日に実施し、競技終了後には体操器具に触れる機会を提供した。



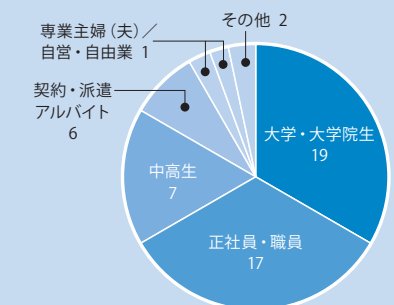
結果・成果

どちらも有料（500 円）イベントとして実施。事業①は 383 名、事業②は 295 名の有料来場者数を記録。来場者は①は主に学生など大学関係者、②は地域住民など非大学関係者であった。チケット単価は、在学生が多かった①は「高い」と感じた回答も少しあったが、②は「安い」と感じたものが多く、高いと感じたものはいなかった。

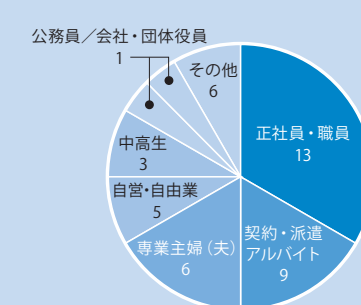
ハンドボール競技体験会は平日の放課後実施のため 50 名の参加目標をはるかに下回る結果となったが、イベントの内容については、保護者・参加者ともに非常に高い評価であった。また、今後実施して欲しい種目についても他種目の希望があり、他種目スポーツクラブの実施について手ごたえを感じた結果となった。

観戦者の職業

●ハンドボール フレンドリーマッチ



●OUHS GYMNASTICS INVITATIONAL



総括・今後の展望

スポーツ局主導のもとホームゲームを実施し、収益をクラブの強化費とする事例を作ったことは、今後積極的に実施を希望するクラブが出てくることが期待できる。イベント定例化にはスポンサーの獲得が必須である。本学スポーツイベント協賛に興味を持つ企業もあるが、大学スポーツの魅力に共感し支援してもらい、かつ一緒に価値を創造するパートナーを見つけることで、単なる広告費としてでなく、フレンドリーマッチの観客や競技体験会の保護者などのステイクホルダーとの接点を創出する、win-winで継続したパートナーシップを構築していきたい。

VOICE 連携団体より

地域住民へ身近なスポーツとしてハンドボールを通じ学生主体で取り組まれている企画に少しでもサポートできればと思った次第です。

安芸高田ハンドボールクラブ GM
杉山 裕一

学生がクラブを超えて交互に交流し理解を深めること。友人知人の部活や行動に触れ自分自身への振り返りや、今後の行動に役立てて、ほしいものです。
change the world through sport ヒュンメルのスローガンです。

株式会社エスエスケイ 西日本エリア ヒュンメル販売
城 克史

九州共立大学による北九州地区を対象としたアダプテッドスポーツの展開 ―世代を超えたアダプテッドスポーツの実践が多世代共生型コミュニティを創出する―

実施概要と目的

① アダプテッド・スポーツ体験会 [地域課題①②⑥⑧]

子どもから高齢者までが、一緒に実施できる「アダプテッド・スポーツ」の体験会を開催

② アダプテッド・スポーツ運動会 [地域課題①②⑦]

「異年齢チーム」を結成し、チームごとに勝敗を決め、表彰式にて上位3チームに表彰状を贈呈

③ アダプテッド・スポーツ出前講座 [地域課題③④⑥⑧]

学生と教員が、地域の皆さまのアダプテッド・スポーツを通じた健康づくりをサポート

④ アダプテッド・スポーツプログラム運営委員会 [地域課題①②③④⑤]

体験会・運動会実施と市町にスポーツの普及・啓発に向けた6市町のスポーツ担当者との交流の場

地域が抱える課題

- 福岡県では子どもから高齢者までの地域交流の「場」が不足^{※1}
- 福岡県では子どもが地域の様々な世代と触れ合う「機会」が減少^{※1}
- 北九州地区の高齢化率は、全国平均より高い^{※2}
- 北九州市では、65歳以上人口が経年的に増加傾向である一方で、生産年齢人口（15歳～64歳）は、経年的に減少傾向^{※3}
- 北九州市での出生率・出生数は経年的に減少傾向^{※3}
- 北九州市では専門的な指導力を有する人材が不足^{※4}
- 宗像市では住民同士のつながりが希薄化^{※5}
- 岡垣町では人口減少や高齢化が進むことで、地域活動の担い手が不足し、従来から行われてきた地域活動が衰退してしまう懸念がある^{※6}

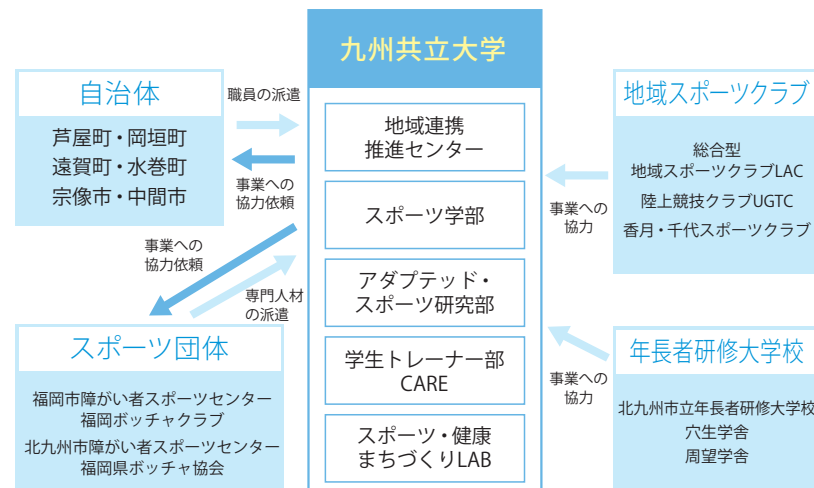
※1：福岡県高齢者保健福祉計画（第9次） ※2：令和2年度高齢社会白書（概要版）
 ※3：北九州市地域福祉計画「北九州市の地域福祉2021～2025」
 ※4：北九州市スポーツ振興計画「改訂版」 ※5：第4次宗像市保健福祉計画
 ※6：まちの未来計画（岡垣町第6次総合計画）

活用した大学スポーツ資源

本事業は、大学の以下のスポーツ資源を活用して実施する。

- 鶴鳴記念館**
体験会・運動会の会場となり、子どもや高齢者、大学生の交流拠点
- 地域連携推進センター**
運営委員会の事務局として機能
- アダプテッド・スポーツ研究部**
体験会や運動会の運営/指導スタッフを担当
- 学生トレーナー部CARE**
体験会・運動会参加者を対象に、安全・健康管理業務を担当
- スポーツ・健康まちづくりLAB**
本事業の立案及び、参加者を対象とした効果測定（見える化）と評価を担当

実施体制図



実施した具体的な事業

■ 事業1 [地域課題①②⑥⑧]

アダプテッド・スポーツ体験会

子どもと高齢者の世代間交流の活性化を目的に、特定のスポーツ種目を実施するのではなく、身体の状態や年齢など、スポーツをそれぞれの人の合わせ、誰もが一緒に行える「アダプテッド・スポーツ」としてポッチャ・風船バレー・卓球バレーの体験会を、子ども・高齢者・大学生により構成される「異年齢チーム」を結成し、実施した。



■ 事業3 [地域課題③④⑥⑧]

アダプテッド・スポーツ出前講座

九州共立大学が包括的地域連携協定を締結する市町におけるアダプテッド・スポーツの普及・啓発を目的に、中間市（2023年11月）と岡垣町（2024年1月）にて、出前講座を実施した。講座では、学生と教員が指導者を担当し、地域住民や運動普及推進委員の皆さまへ対して、ルールや用具の説明を行いながら、卓球バレーとポッチャを通じて参加者同士の交流を図った。



■ 事業2 [地域課題①②⑦]

アダプテッド・スポーツ運動会

運動会では、参加者である子ども（17名）・高齢者（34名）・大学生（46名）をもとに、12チームの「異年齢チーム」を結成した。まず、チームごとに自己紹介タイムを設け、その後アイスブレイクで交流を深めた後、＜種目①＞ポッチャ、＜種目②＞卓球バレーを行い、チームごとに勝敗を決め、表彰式にて上位3チームに表彰状を贈呈した。



■ 事業4 [地域課題①②③④⑤]

アダプテッド・スポーツプログラム運営委員会

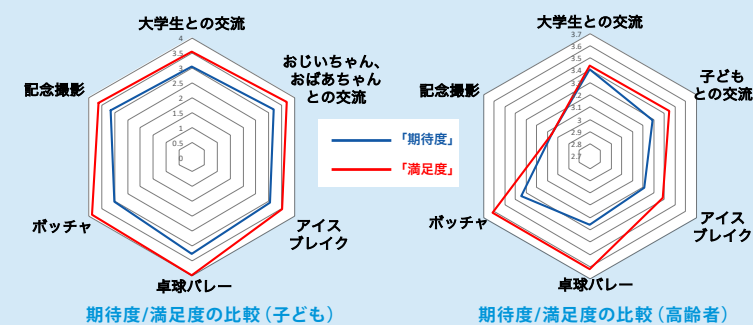
体験会と運動会の実施に向けたオペレーションの確認や参加者の獲得に向けた戦略について議論する場として機能した。運営委員会には、6市町の委員と学内委員（6名）が中心となり、アダプテッド・スポーツの普及・啓発に向けた出前講座の企画や、多世代共生型コミュニティの創出に向けた、次年度以降の事業プランを検討した。



結果・成果

「九州共立大学アダプテッド・スポーツプログラム運営委員会」が設立した後、世代間交流の活性化を目的とした体験会を10月から12月にかけて3回開催した。また2024年1月には、子どもと高齢者、大学生をもとに、12チームの「異年齢チーム」を結成し、ポッチャと卓球バレーを行い、表彰式にて上位3チームに表彰状を贈呈した。これらプログラム参加者数としては、361人を動員した。

KPIの一つとして、「プログラム期待度/満足度」を設定した。子どもの運動会に対する期待度・満足度は、6つの項目全てにおいて、満足度が期待度を上回る結果が示された。高齢者の結果からは、記念撮影を除く、5つの項目において、満足度が期待度を上回った。運動会に参加した子どもに対して、お年寄りに対するイメージについて調査したところ、参加前では、ネガティブなイメージを象徴する言葉が抽出されていたものの、参加後には、「たくましい」「前向き」「話しやすい」などのお年寄りとの親近感が湧いたことを連想させる言葉が抽出された。



総括・今後の展望

令和5年度では、子どもと高齢者を包括した多世代交流の活性化に向け、両者の運動・スポーツ実施に関わる情報支援や活動を実施するために必要な機会の設置を目的として定め、事業を展開した。今後は、令和6年度からの3ヶ年を対象に、大学施設（鶴鳴記念館）と連携市町におけるスポーツ施設を活用しながら、青少年から高齢者までを対象とした事業を継続する。実施するプログラムとしては、ポッチャ等の既存種目に加えて、九州共立大学スポーツ部に所属する学生が新たに創出したスポーツ（スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2023＜アイデア部門：スポーツ庁長官賞受賞＞）を導入し、地域への普及を目指す。令和9年度以降は、連携市町が自律して地域住民に対してスポーツ推進事業を安全に提供できるよう、各プログラムには、大学生と教員が参画し、専門的な知識や指導スキルの共有化を図り、各プログラムの効果測定と評価を行いながら、自律性を完備した多世代共生型コミュニティの創出を支援する。

VOICE

連携団体より

アダプテッドスポーツ体験で、様々な世代・団体の人とチームを作り、競技に熱中し、一緒に楽しい時間を共有でき感謝しています。

北九州市立年長者研修大学校 周望学舎
事務課長 宮崎 多佳子



出前講座参加者から『今後は地域行事等に取り入れたい』と前向きな意見を沢山いただきました。参加者の気持ち在今后も生かされるように行政としてできることに取り組みたいです。

岡垣町役場 企画政策室
企画政策係 山田 藍



スポーツ医科学に基づいた指導者・トレーニング方法の普及

実施概要と目的

①スポーツ医科学に基づいた指導者トレーニング講習会の開催 (課題①②)

スポーツ指導者およびスポーツ活動に従事する生徒及びその保護者を対象にした講演会

②地域の部活動支援 (課題①③④)

大学生による指導サポート及び群馬県のHPSを用いた支援

③多様な方法を用いた情報発信 (課題②)

新聞広告をはじめとした多様な媒体を用いた、スポーツに関する専門知識などの提供

活用した大学スポーツ資源

本事業は、大学の以下のスポーツ資源を活用して実施する。

■ 本学教職員

講演会や有識者会議などの開催

自治体やスポーツクラブ、県内スポーツ団体との連携

部活動の地域移行の一環として、大学施設を用いた指導や、地域のスポーツクラブ等へのサポート学生の派遣調整など

■ 課外活動団体に所属する学生

部活動の地域移行に関連して大学施設を用いた指導サポートや、地域のスポーツクラブなどの活動の指導サポートなど

■ 群馬県のハイパフォーマンスアプリ（群馬県のHPS）

群馬県と共同開発中の群馬県のHPSをもちいて、体組成の変化を可視化するなど、トレーニングのサポートが可能

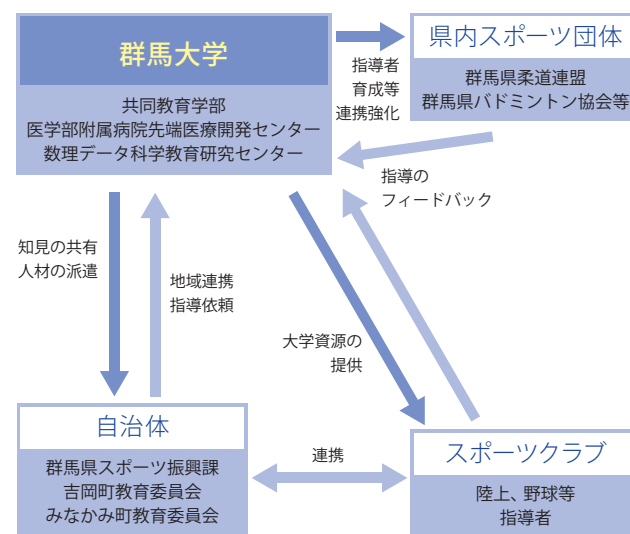
■ 体組成計（タニタMA780）

四肢の筋肉量を部位別に測定できるなど、体組成を詳細に測定可能な体組成計

地域が抱える課題

- ① 群馬県においては、人口密度の低い地域が多く部活動の地域移行を進めるあたり指導者の不足が懸念される。
- ② 学校現場の指導者や、今後部活動の地域移行を進めるにあたり指導に携わる地域のスポーツクラブ等の指導者において、スポーツ医科学に基づいた新たな専門知識を得る機会が不足している。
- ③ 群馬県においては、人口密度の違いによるスポーツ環境の地域格差（指導者の数や運動施設までの移動距離）が大きい。
- ④ スポーツに関わる生徒のトレーニングに関する知識の不足や、トレーニング効果を確かめられないことなどから、スポーツ活動が受け身になりがちとなることや、自身のスポーツライフにおける意味を見失うことで、スポーツ離れの可能性が高まることが考えられる。

実施体制図



VOICE 連携団体より

県内の大学が連携して、今後さらなる指導者育成のための連携・協力体制を確立し、現場のニーズに合わせた情報を発信してほしい

NPO法人新町スポーツクラブ・理事長
小出 利一



部活動の地域移行という大きな変化に対して、指導者の育成のニーズも高まっており、今後も継続的な連携を期待する

吉岡町教育委員会生涯学習室・社会教育指導員
飯塚 敏雄・坂本 浩之



実施した具体的な事業

■ 事業1

[地域課題①②]

スポーツ医科学に基づいた指導者トレーニング講習会の開催

スポーツ指導者に対して、エビデンスに基づいた指導力・知識を身に付けていただくとともに、スポーツを行う生徒やその保護者に対しても理解しやすい形で知識を提供することを目的に、計3回の講演会を実施した。

それぞれの講演会において、部活動の地域移行の現状やスポーツコンディショニングやスポーツ栄養の知識など多岐にわたる内容について、最新の情報を提供した。



■ 事業2

[地域課題①③④]

地域の部活動支援

大学の運動施設および地域に出向いての部活動の地域移行の支援活動を行った。大学の課外活動を行っている学生が活動に参加することで、指導に関する知識などを学習し、将来の指導者育成の一助を担うことができた。

また、生徒が日頃のトレーニング効果を客観的に把握する事ができるよう群馬県のHPSを活用した体組成の測定を行った。



■ 事業3

[地域課題②]

多様な方法を用いた情報発信

地域の幅広い指導者に専門知識を得る機会を提供するため、講演会をハイブリッドで実施した。また、内容について、後日視聴できるようにした他、新聞広告を用いて、本事業の取り組み内容や講演会の情報などを6回にわたり掲載した。また、HPなどにも情報を随時更新するなど知識の提供機会を広げる工夫を行った。



結果・成果

準備期間の短い中での事業となったが、講演会の内容についての理解度も高く、内容の配信方法にも工夫を行ったことで、スポーツに関わる多くの方に専門的な知識や、部活動の地域移行についての現状などについての情報を発信することができた。

特に、新聞広告やホームページ等を通じて、講演内容を後日確認できるようにしたこと、専門知識に触れる多様な機会を設けることができた。講演会後に、競技団体から講演依頼の相談が来るなど、大学のリソースの活用方法を伝えることができた。

また、部活動支援事業を通じて、大学施設や地域のスポーツクラブでの指導補助を通じて、地域のスポーツの活性化に貢献できたことや、大学において課外活動を行っている学生が、スポーツの指導現場に関わる経験ができたことは、今後のスポーツ指導者育成につながるものとする。また、群馬県のHPSアプリを用いた支援については、今回、部活動の地域移行も踏まえて、利用者のニーズを聞き取りながら、さらにより良いものにアップデートしていく機会となった。

総括・今後の展望

今後は、更に地域との連携を強化するとともに、現在の、そしてこれからスポーツに携わろうとしている人へ、必要に合わせた情報発信を、スポーツクラブ・自治体・企業と連携して発信していくことが大学のリソースの有効な活用につながるものとする。また、地域によって、部活動の地域移行の課題の多様性、移動距離などの地理的な問題から地域の指導者不足などの課題に対して、大学の人的リソースの活用方法の限界など、改めて課題が見えてきたことから、今後、地域の部活動支援のあり方について、地域の課題に合わせた支援を改めて検討する必要がある。



静大SPORTSによる共創社会構想プロジェクト (スポーツウェルビーイングタウンの実現に向けた異文化共創)

実施概要と目的

① 地域安全見守り隊 [地域課題①②⑤⑥]

“健康づくりからまちづくり”を合言葉に、地域安全啓発活動とランニング活動との連携

④ 女子サッカークリニック [地域課題④⑥]

女子小学生・中学生を対象にしたサッカー啓発・普及活動

⑦ SPORTS FESTIVAL [地域課題①③⑦]

プロスポーツ選手有志団体とのコラボにより実現したサッカー体験イベント

⑩ ウォーキングコース設置提案時実験事業 [地域課題①②③⑤⑥]

安全啓発事業や健康教室に連動した「まちづくりハード整備」に関する基礎調査・実験

⑬ 大谷静大スポーツカンファレンス [地域課題①②③④⑤⑥⑦]

本プロジェクトの総括イベントとしてのプログラム報告会と参加者交流事業

② 健康教室“朝夕さんぽ” [地域課題①②⑤⑥]

ノルディックウォーキングと体操を融合させた健康運動教室

⑤ 出前動きづくり教室 [地域課題②③]

小学生(低学年)を対象にした動きづくりに関する継続教室

⑧ アウトドアと地域振興 [地域課題①②③⑤⑥]

ロゲイニングやオリエンテーリング、読図に関するカフェ形式の座談イベント

⑪ 地域スポーツコミッション実態調査 [地域課題①②⑥]

静岡県スポーツ課題の2本柱の一つに位置付く、地域スポーツ課題解決のための実態調査

③ ジュニアハンドボールクリニック [地域課題③④]

中学生を対象にしたハンドボール啓発・普及活動であり、部活動チームとの連携

⑥ グローバルスポーツイベント [地域課題①②③⑤⑥]

地元外国人労働者をはじめ背景に異なる住民同士が集うニュースポーツ体験イベント

⑨ サッカーに関する社会・競技にまつわる講演会 [地域課題①⑦]

サッカー(スポーツ)と他文化領域との接合をテーマとした講演会事業

⑫ パラスポーツ組織会員調査 [地域課題①②⑤⑥]

静岡県スポーツ課題の2本柱の一つに位置付く、パラスポーツ振興のための基礎調査

地域が抱える課題

- ① 異世代交流の必要
- ③ 子供の外遊びの貧困化
- ⑤ 成人スポーツプログラムの単調化
- ⑦ ホームタウンチームへの無関心化

- ② 人と人の繋がりとなる健康の在り方
- ④ 中学校部活動種目数の限定化
- ⑥ 市民スポーツ広場の未活用

※①と②は対象地域による重要課題であり、それをスポーツ課題として捉えた場合に③から⑦を定めた。

活用した大学スポーツ資源

本事業は、本学の以下のスポーツ資源を活用して実施する。

■ **グローバル共創科学部および地域創造学環に所属する教員、および所属学生**
当ユニット在籍のスポーツ科学系研究者およびスポーツ系コースの在籍学生

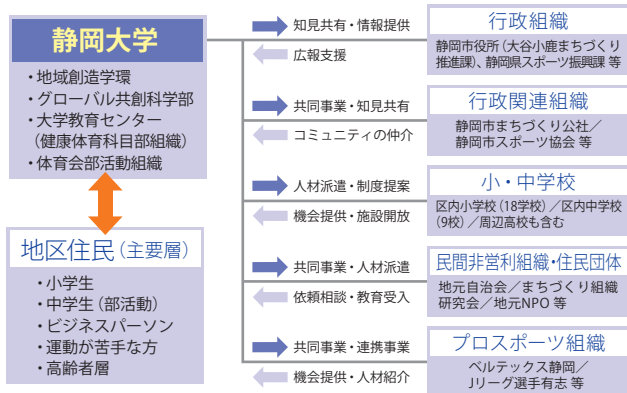
■ **上記の主部局以外による研究者**
教育学部や人文社会科学部に在籍する心理学系・社会学系教員

■ **体育会部活動に所属する学生**
静岡キャンパスにある41の運動部活動所属生

■ **静岡キャンパスの各種スポーツ施設**
人工芝グラウンド、野球場、陸上競技場、体育館、多目的コート、傾斜豊かな広大な自然環境等

■ **全学教養教育センター部局のネットワーク**
「大学教育センター」在籍の外国語教員等

実施体制図



VOICE 連携団体より

本事業により大学生と地域との繋がりが生まれました。来年度も継続実施をしていた
だき、取組みが地域に根付くことを
期待します。

静岡市役所 大谷・小島まちづくり推進課
遠藤 駿

静大生の皆さんと作り上げたスポーツフェス
ティバルは、子供たちの笑顔溢れる素晴らし
いイベントになりました。

ONE SHIZUOKA PROJECT代表 (ジュピロ磐田)
山田 大記

実施した具体的な事業

事業1

[地域課題①②⑤⑥]

地域安全見守り隊

“健康づくりからまちづくり”を合言葉に、安全啓発活動とランニング・ノルディックウォーキング活動を連携させた事業化を行った。ランニングしながらの地域見守りや、ウォーキングと体操を融合させた朝体操活動の継続実践により、安全と安心を実現できる地域環境の整備・改善に貢献できた。また、ウォーキングコースの設置が、地元を見直す契機となった。



事業6

[地域課題①②③⑤⑥]

グローバルスポーツイベント

地元の公共スポーツ広場の有効活用と併せて、地元企業の外国人労働者にとっての健康・スポーツ環境整備をねらった事業であった。6～79歳までの幅広い年代の参加者が集まり、モルック、ウォーキングサッカー、ブローライフ等体験しながら、運動習慣確保と地域活性化をねらう事業であった。外国人労働者をはじめ住民・学生とのコミュニティを図る契機となり得た。



事業3

[地域課題③④]

ジュニアハンドボールクリニック

本市のジュニアスポーツにとって、さらなる発展が期待できる種目(ハンドボール)の啓発であった。複数の専門指導者や大学生によるクリニックを継続実施した。その結果、生徒らの個人スキルの成長がみられた他、クラブ間の協働や本事例を耳にした別団体からの依頼もあり、今後のネットワークの拡がり期待できる成果を挙げることができた。



事業8

[地域課題①②③⑤⑥]

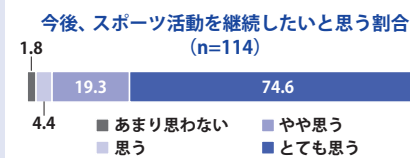
アウトドアと地域振興

トレイルランニングについて紹介すること共に、トレイルランニングが自然や地域社会を丸ごと捉える視点から、地域振興とも結びつきやすい考え方について参加者間で共有した。アウトドアスポーツの奥深さを感じるとともに、地形・歴史背景・文学にまで結びつくことの奥深さを参加者間で共有できたことが、スポーツと文化の共創を実現するものであった。



結果・成果

本プロジェクト全体の効果検証としては、まず、参加したプログラムが「楽しかったか」や「学んだことがあったか」のポイントが非常に高く好評であった。また、スポーツ活動継続への高い意欲が認められ、それに関連して、スポーツボランティアへの意欲や地元活動参加意欲への高い向上が確認された(参加者アンケート n=114 より)。次に、連携団体へのヒアリングから得られた成果として、「団体間の協働により資源の有効的活用と参加者の奪い合いがなくなりとても良かった」「指導に関して科学的根拠に基づいた資料提示がとても有効であった」との見解があった。



「スポーツ活動の継続意欲」と「ボランティア意欲」および「地域活動意欲」のクロス分析

	運動・スポーツを続けたいと思う				ボランティア活動に参加したいと思う				地域活動に参加したいと思う			
	あまり思わない	やや思う	思う	とても思う	あまり思わない	やや思う	思う	とても思う	あまり思わない	やや思う	思う	とても思う
スポーツ活動の継続意欲	1	50.0%	0	0.0%	3	13.6%	3	3.6%	1	50.0%	1	20.0%
ボランティア意欲	0	0.0%	4	80.0%	8	36.4%	18	21.7%	0	0.0%	0	0.0%
地域活動意欲	0	0.0%	0	0.0%	4	18.2%	25	30.1%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	2	9.1%	29	34.9%	0	0.0%	0	0.0%
地域のため	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	9	10.7%	0	0.0%	0	0.0%
に役立つ	2	100.0%	3	60.0%	7	33.3%	22	26.2%	0	0.0%	0	0.0%
活動したい	0	0.0%	2	40.0%	10	47.6%	29	34.5%	0	0.0%	0	0.0%
とても思う	0	0.0%	0	0.0%	2	9.5%	23	27.4%	0	0.0%	0	0.0%

総括・今後の展望

本事業の成果は、まちづくりとして効果が確認された。例えば、地元の安全啓発事業とウォーキング系活動を連動させたことで、地域内での異世代交流を意図的に設けることができた。また、各種サービスプログラム等から、先述した5つの地域スポーツ課題の改善に貢献できた。
今後の展望は、本プロジェクトのプロモーションをさらに強化し、全学的な体制を布くことである。既に学内では、全学教養科目改革のパイロットケースとして事業化されることが決定している。学内的なムーブメントをさらに高め、地方国立大学ならではの地域スポーツ振興モデルを構築していきたい。

周南のまちに、スポーツを起点とする新たな文化とコミュニティを創る『LIFE IS SPORTS @しばふプロジェクト』

実施概要と目的

① 地域におけるスポーツ企画の実施 [地域課題①②③④⑤]

老若男女、すべての市民の方々へ！ あらゆる「壁」のないスポーツを目指して

② LIFE IS SPORTS @しばふキャラバン [地域課題①②③④⑤]

周南市の中心部から遠い中山間地域を中心に依頼のあった企画をお届け

③ しばふゼミの開催 [地域課題④⑤]

市民×学生との交流&コミュニケーションを促進！ 地域の方々の声を次の企画へつなげる

地域が抱える課題

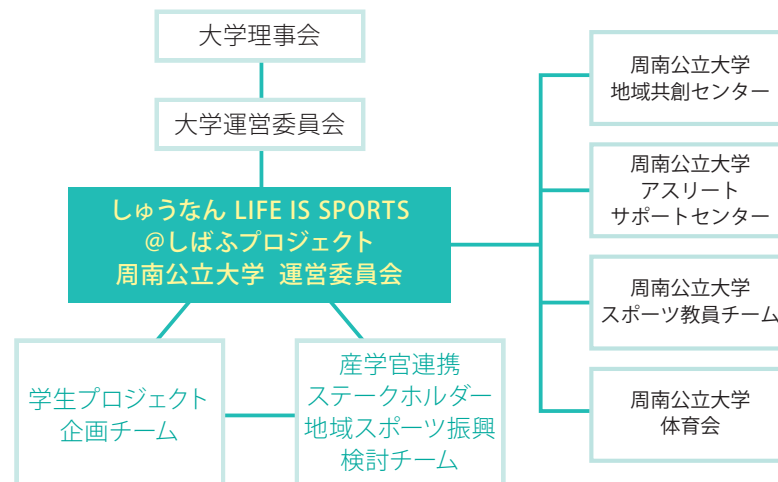
- ① 幼、少、中、高齢期のすべてのスポーツ活動の場の担い手不足や環境維持が困難な状況が生じている。
- ② 様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、つながりを感じてスポーツを行う場所がない。
- ③ 住民誰もが気軽にスポーツに親しめる場所がない。
- ④ 上記のようなスポーツの在り方が文化としてまちに根付いていない。
- ⑤ 地域のスポーツイベント等でのスポーツ体験や人との出会いがその時限りになってしまっており、その後につながっていない。

活用した大学スポーツ資源

- スポーツと周南地域を愛する学生
- スポーツを学び、スポーツを基軸とする地域振興に全力で取り組む学生
- 地域を盛り上げる多々のスポーツ活動実績

上記のスポーツ資源に加え、「地域の持続的発展と価値創造のための成長エンジンとなる」というミッションの下、「日本一のまちづくりの中核となる地域貢献大学」として、地域のWell-beingを高め、地域住民の豊かな生活に貢献するための取り組みと実績のすべてが本事業の資源である。

実施体制図



VOICE 連携団体より

ボートレース徳山を有効活用し、新たにスポーツに触れ合う人たちが増え、地域の文化醸成に繋がった大変有意義な取り組みでした！

株式会社レノファ山口
事業部 上利 直輝



様々なコンテンツ企画を柔軟に生み出し、ニーズに応じて進化・成長する本プロジェクトの今後の展開を楽しみにしております。

カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社
ソーシャルデザイン統括本部 山中 憲治



実施した具体的な事業

■ 事業1 [地域課題①②③④⑤]

地域におけるスポーツ企画の実施

周南地域の芝生広場などのオープンスペースを活用し、以下3点を目標とする多彩なLIFE IS SPORTS企画を実施した(計7回9日間)。

1. 日常生活のすべてを「スポーツ」として捉え、新たな価値観と文化を提案する。
2. スポーツ参画への間口を広げ、敷居を低くする。
3. スポーツをより身近にし、誰もが楽しめる時間と空間を地域に創出する。

8/26、9/30、10/9、11/3-5、11/12、12/24、1/27の会場来場者の総計は約21,270名、参加した有志学生は延べ約280名であった。

企画例：しばふ de だれでもバレーボール！、くつ飛ばしダーツ、Let's プレイモルック！、侍セイバー！スマートフェンシング&サッセン、Let's スケボー体験、YOSAKOI ステージ、No walls ハンドボール！鳥かご、3 on 3 & バasketボールで遊ぼう！、しばふ de SAUNA SAUNA！、No walls ハンドボール！鳥かご、eスポーツ交流会、PLAY エリア



■ 事業2 [地域課題①②③④⑤]

LIFE IS SPORTS @しばふキャラバン

スポーツイベントでのつながりとスポーツ体験を継続するために、本プロジェクト学生チームに依頼のあった LIFE IS SPORTS 企画を依頼元へお届けした(計8回)。左記事業1は、周南市中心部での開催となったことから、本事業では特に市内の中山間地域をターゲットに、本プロジェクトがスポーツによる地域振興と地域のコミュニティづくりにつなげることを目指した。



■ 事業3 [地域課題④⑤]

しばふゼミの開催

LIFE IS SPORTS企画時に「しばふゼミ」を実施。イベント来場者に本プロジェクト企画をご案内するとともに、地域の課題や解決に向けた企画内容について情報・意見交換を行い、市民の方々と学生の交流を目指した。「しばふゼミでのアイデアを次の企画につなげていき、地域で実走する」というサイクルでLIFE IS SPORTS企画の立案を進めた。



結果・成果

- 成果①：**目標の会場来場者数を大きく上回る市民の方々へ、身体を動かす機会を提供するとともに、周南市の公園や芝生広場で自由に集い、参加者同士がつながることのできる場所ときっかけをつくることができた。
- 成果②：**イベントが点で終わらず、企画終了後も継続して地域の方々とともに活動する学生コミュニティができた (KPI：目標値3⇒達成値6チーム)。
- 成果③：**次年度も本事業を継続できる産学官の連携体制を構築することができた (KPI：目標値5⇒達成値約40のステークホルダーを獲得)。



総括・今後の展望

本プロジェクトによって、運動部には所属していない「スポーツと周南地域を愛する学生」を発掘し、運動部によるスポーツ教室型とは異なる主旨の地域振興事業を展開することができた。また、短期間ながら約40のステークホルダーを有するまでに成長することができ、周南市における産学官連携の輪は飛躍的に広がった。

2024年度は本年度の取り組みを継続するとともに、+新規の地域活動を展開。各ステークホルダーが有する資源と強みを活かし、周南地域のスポーツ・文化のさらなる活性化とコミュニティの創出を目指す。

まつばら阪南大学マルチスポーツチャレンジ ～持続可能な循環型スポーツクラブの実践～

実施概要と目的

① 持続可能な循環型スポーツクラブの運営 【地域課題①②③④】

まつばら阪南大学スポーツクラブで様々な活動を実践した。その具体例を②以降に示す。

② まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル 【地域課題①②】

主に3歳から9歳くらいの子どもの対象に自由あそびなどで楽しむ機会を提供した。

③ まつばら阪南いきいきマルシェ 【地域課題①②③】

子どもから高齢者まで、みんなが“いきいき”と運動やスポーツ、食を楽しむ場を提供した。

④ 小中学生を対象としたコーチング実践 【地域課題①④】

ダンス部とバスケットボール部のコーチや部員が市内の小中学生の指導にあたった。

⑤ みんなで楽しくリズム体操～大学生と多世代交流～ 【地域課題③④】

市内の高齢者を対象に、大学のスポーツ施設を利用し学生たちによる運動イベントを実施した。

地域が抱える課題

- 働きざかり世代、子育て世代で運動習慣が不足^{※1}
- 子どもの頃からの運動習慣を継続できる環境づくり^{※1}
- 高齢者の身体機能・生活機能の低下の予防に向けた支援^{※1}
- 人口減少によるスポーツ指導者やサポート人材不足^{※1}

※1：第2次健康まつばら21(健康増進計画・食育推進計画)

活用した大学スポーツ資源

本事業は、本学の以下のスポーツ資源を活用して実施する。

■ 本学教職員(スポーツ関連専門家)

イベントの企画・立案、イベント実施、スポーツクラブ運営、コーチング(ダンス・バスケットボール・サッカー)の各エキスパートが各所と協働して事業を実施した。

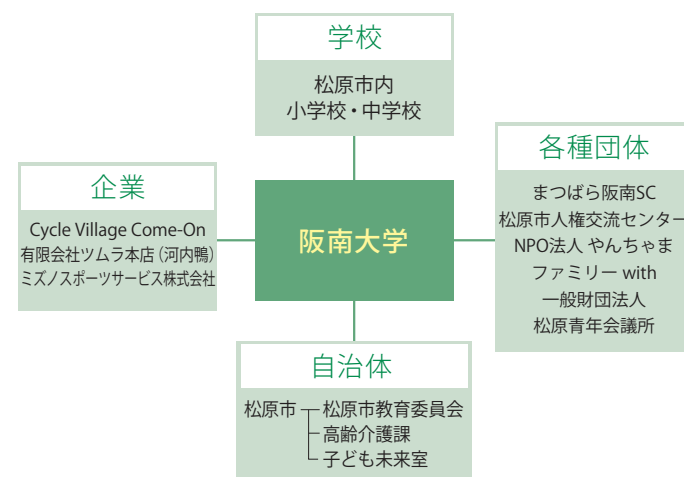
■ 強化クラブを含む課外活動団体の所属する学生

強化クラブ(バスケットボール・トランポリン・サッカー)に加えて、ダンス部やスポーツマネジメント部、そして有志の学生が本事業に賛同して活躍した。

■ 阪南大学本キャンパス、高見の里グラウンド

人工芝グラウンドと総合型体育館を備えた本キャンパス、サッカー専用的高見の里人工芝グラウンドで事業を実施した。

実施体制図



VOICE 連携団体より

子どもたちが楽しみながら体力を向上でき、安心できる「学校以外での居場所」の一つとして今後も機能が続けていってほしいと願っています。

松原市教育委員会 学校教育部
次長 矢野 智史



町の子ども達に向けた青少年事業を手伝って頂きました。学生のおかげで、たくさんの子どもが礼儀作法をはじめとした内面的成長を得ることができたと思います。

一般社団法人 松原青年会議所
副理事長 深山 大地



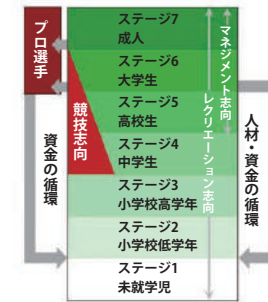
実施した具体的な事業

事業1

【地域課題①②③④】

持続可能な循環型スポーツクラブの運営

「過去への感謝、未来への責任」のクラブフィロソフィーのもとで持続可能な循環型スポーツクラブを目指している一般社団法人まつばら阪南大学スポーツクラブを中心に、行政や民間企業などと連携して様々な活動を実践した。その具体例を②以降にまとめた。



事業3

【地域課題①②③】

まつばら阪南いきいきマルシェ

「子どもから高齢者まで、みんなが“いきいき”と運動やスポーツ、食を楽しむ場を提供する」を目的として、計5回実施した。屋外イベントのため天気によって来場者数にばらつきがあったが、平均すると200名程度が参加した。会場には、誰もが気軽に遊べるスペースを作ったり、松原市内で採れた美味しい野菜や、銘菓を販売するブースを設置した。特に、小さい子どもを連れた保護者からの評判が良く「近所でこういったイベントを開催してくれると大変ありがたい」といった声を頂いた。



事業2

【地域課題①②】

まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル

本事業のメインイベントである「まつばら阪南のびのびあそびフェスティバル」では、主に3歳から9歳くらいの子どもの対象として、自由遊びや、ダンス、トランポリンなどを楽しめる機会を提供した。参加してくれた子どもは大変楽しそうに遊んでいた。中には、開場から終了まで5時間以上滞在してくれた方もいるくらい、参加者にとって居心地の良いイベントとなった。



事業4

【地域課題①④】

小中学生を対象としたコーチング実践

松原市内小学校からの依頼を受け、本学のダンス部員が小学校でダンス指導を行った。最終日は小学校の先生方に完成したダンスを披露し、沢山の拍手を頂いた。バスケットボール教室は、本学のコーチと部員が初心者と経験者を対象にバスケットボール教室を開催した。

事業5

【地域課題③④】

みんなで楽しくリズム体操～大学生と多世代交流～

松原市の高齢者を対象に阪南大学のスポーツ施設を利用し、学生たちによる運動イベントを実施した。これまで準備してきた運動プログラムの成果を発揮することができ、高齢者と学生の交流も大盛り上がりだった。座ったままのストレッチや脳トレを行い、最後にイベントの目玉でもあるマツケンサンバ®阪南大学Ver.を踊った。帰り際に参加者から次回も参加したいというお声を沢山頂くことができた。

結果・成果

本事業は、地域の喫緊の課題である各年齢層における「運動習慣」に特に着目して推進した。参加者からは満足度の高いコメントを頂き、現地では多くの笑顔を生み出すことができた。これまで本学教員によるゼミや部活動で不定期に開催していた各スポーツイベントを、本事業をきっかけに集約し、広報活動を行い定期的に開催することで、対象とした松原市民に「大学スポーツ資源を活用した」スポーツ事業があることの認知度を高めることができた。明確な成果としての運動習慣改善は、今後、本学の各部署横断で取り組んでいかなければいけない課題である。本事業の「持続可能な循環型のスポーツクラブの実践」については、強化クラブの部員が競技スポーツに関わるだけでなく、子どもを指

導する立場になってスポーツの力で地域を活性化できることを実感してくれた。またスポーツマネジメント部の活躍により、各イベントは学生を主体として実行されていった。彼女らが卒業して、今度は家族を連れて参加者として大学に帰ってこられる場を次世代の学生が創る。そんな「循環」の第一歩を今回の事業で作り出すことができた。



総括・今後の展望

本学教員のスポーツに関する専門性、強化クラブを中心とした施設とその部員、指導者、そして大学全体の理解を得て「地元松原市のために何ができるか」という問いから本事業が始まった。本事業を通して、本学の更なる潜在能力にも気づくことができた。世界レベルの選手を輩出するスピードスケート部、新設の女子サッカー部、そしてeスポーツやAIデータサイエンスの活用など、いまだ眠っている本学の潜在的な資源を生かして、松原市の地域振興をさらに加速させていきたい。

MEMO

[illegible]

MEMO

[illegible]

MEMO